

芸術文化振興基金助成事業作品

障害者福祉啓発ビデオ

みみをすます

『みみをすます』谷川 俊太郎作 福音館書店刊より

上映時間 46分 [C#3639]

ビデオ版 94,500円 (本体90,000円)

※字幕入り版あり [C#3640]



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17
<http://www.toei.co.jp/edu/>



芸術文化振興基金助成事業

企画意図

この作品は、バリアフリーを体感するビデオです。私たちが障害者の福祉を考える時、障害者と健常者というそれぞれのカテゴリーに分けて捉えがちです。しかし、こうしたバリアを取り払い、区別なく同じ人間としての感覚を共有することは重要なことです。「みみをすます」は、音や音楽とは何かを考えるビデオです。聴覚障害者にとって「聴く」とは何か?そして、「聴こえない」という「障害」って何だろうということ、障害者自身の体験を共有することで考えていきます。楽しい音楽や詩を主人公のゆんみと同時に体感しながら、真のノーマライゼーションとは何かを問いかけます。 出演・ロバの音楽座、谷川俊太郎、野々歩ほか。

「ゆんみとサミー」

ゆんみは生れたときから耳が聴こえない。聴導犬サミーはゆんみの大切な人生のパートナー。ゆんみの悩みや思いをサミーはいつも受け止めている。

「就職活動」

ゆんみは7年間アメリカに留学していた。その経験を生かし就職活動始める。ゆんみの熱意を受け止め、障害者を区別せず採用する企業がゆんみを受け入れてくれることに。

「ロバの音楽座との出会い」

公園にサーカスのような大テントがやって来た。公演していたのは中世の古楽器集団・ロバの音楽座。ゆんみはリーダーのガリュウさんに“わたしに音楽を教えて”と懇願する。こうして出会ったロバの音楽座のメンバーとゆんみは、音楽を通して交流を始める。

「谷川俊太郎さんとの出会い」

詩人のライブを見た。“おと”と“ことば”の遊びだった。お宅を訪問したゆんみを詩人は真正面から受け止める。詩人とゆんみは筆談で、音や言葉についていつまでも語りあう。詩人はゆんみに“みみをすます”という詩を贈る。ゆんみは思う。“音は心で感じるもの”

「森で」

ゆんみは森の夢を見た。森で野々歩と出会う。野々歩が森で歌う歌は、木の葉のざわめき、木漏れ日、生い茂る下草。もっと音楽を感じるために、ゆんみは野々歩の胸元に顔を埋め歌声が振動になって伝わるのを“聴く”。

「街」

音楽だ。私の音楽。ゆんみは吠えた。リズムも、歌詞も、強弱もなっていない。ゆんみの全細胞が歌うことに集中した。“声”という“こころの塊”が空へ向かって放たれた。

ストーリー



プロデューサー:中鉢裕幸 監督・ストーリー・編集:前田和男 撮影監督:松丸武彦

2005年作品

S

関東営業推進室 東京都中央区銀座3-2-17 〒104-8108 ☎03-3535-3631
関西営業推進室 大阪市北区梅田1-12-6 〒530-0001 ☎06-6345-9026
広島出張所 広島市中区八丁堀16-10 〒730-0013 ☎082-511-2066
高松出張所 高松市本町11-7 〒760-0032 ☎087-851-3766
福岡出張所 福岡市博多区中洲4-3-18 〒810-0801 ☎092-262-3101

●お買い上げは……

(株)オプチカル 販売課 教育映像係

香川県高松市屋島西町2484-8

TEL 087-841-1100

FAX 087-841-1101